

# 令和2年度 施政方針

## はじめに

令和2年度予算関係議案の審議に先立ち、私の市政運営の基本姿勢について申し上げます。

皆様方の温かいご支援をいただきスタートいたしました私の第2ステージも早や3年が経過いたしました。本年は正に総仕上げの年であり、皆様にお約束した公約の実現に向け、身の引き締まる思いでございます。

さて、この一年を振り返りますと、去年は歴史的な皇位継承があり、「平成」から「令和」へと希望に満ちた新しい時代を迎えた一年となりました。

また、アジアで初めての開催となりましたラグビーワールドカップでは、「ワンチーム」をスローガンに、日本代表チームが一丸となって戦う姿が、日本中に勇気と感動を与えていただきました。

一方、東日本を広範囲に襲った台風15号、19号は各地に甚大な被害をもたらしました。被災地域の日も早い復旧、復興をお祈り申し上げるとともに、私自身、改めまして防災対策の重要性を再認識したところでございます。

このような中、本市におきましては、愛媛県と新居浜市、西条市、四国中央市の3市が連携し、東予東部で初めてとなる広域振興イベント「えひめさんさん物語」が開催されました。

県内外から多くの方が新居浜へ足を運んでいただき、「別子銅山産業遺産」や「ものづくりの技」など、本市の魅力を全国に発信することができたと感じております。また、今回の取組を一過性に終わらせることなく、東予3市が更に連携を強化し、全国に向けて愛媛東予ものづくり3市の魅力を発信していかなければならないと考えております。

スポーツの分野におきましては、京都府で開催された全国高等学校駅伝競走大会に新居浜東高等学校が初出場し、都大路を全力で駆け抜けました。そして、1月に行われた第70回愛媛駅伝競走大会では、見事優勝の栄冠に輝きました。さらに、滋賀県で開催された全国中学校駅伝大会では、新居浜西中学校男子が5位入賞、女子も14位という好成績をおさめました。これら競技大会での大活躍を機に、「ウェイトリフティングのまち新居浜」に続きまして、「駅伝のまち新居浜」も市内外へ広くアピールしてまいりたいと考えております。

また、1月に東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京2020」において、岸ノ下、萩生西、萩生東の3台の太鼓台が出演し、豪華絢爛、勇壮華麗な

寄せ太鼓などの三位一体となった素晴らしい演技を披露し、東京ドームに詰めかけた多くの観客を魅了いたしました。また、その後のSNSなどによる反響も大変大きく、新居浜市、新居浜太鼓祭りを全国に向けて強力にアピールしていただけたと心強く感じております。

さて、今年、待望のオリンピックイヤーを迎え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本市でも、4月にオリンピック聖火リレー、8月にはパラリンピック聖火フェスティバルを実施いたします。

また、本市はサウジアラビア王国、モザンビーク共和国のホストタウンとして登録されておりますことから、人的・文化的な相互交流を図るなど、市民の皆様とともに、この4年に一度の世界的スポーツの祭典を盛り上げてまいりたいと考えております。

国におきましては、令和2年を新しい時代に向けた国づくりを力強く進める時とし、Society（ソサイエティ）5.0時代に向けた人的・物的投資を喚起した「生産性の飛躍的向上」、女性や障がい者、高齢者など誰もがその能力を発揮できる「一億総活躍の実現」、全ての世代が安心できる「全世代型社会保障の構築」、観光・農林水産業をはじめとした「地方創生」、防災・減災対策による「国土強靱化」など、重要課題への取組を行うこととしております。

本市におきましても、来る令和2年度は、平成23年度に策定した本市の最上位計画であります「第五次新居浜市長期総合計画」の完遂、初年度を迎える人口減少問題の解決と地方創生を目標として策定した「第2期新居浜市総合戦略」の推進、近い将来発生が懸念されております南海トラフ巨大地震に備えた防災・減災対策の充実・強化、そして日常生活や社会経済活動など様々な分野で日々進化するICT利活用の推進に重点を置いて、市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

#### **第五次新居浜市長期総合計画の完遂と第2期総合戦略の推進**

まず、「第五次新居浜市長期総合計画」の完遂と「第2期総合戦略の推進」でございます。

本市ではこれまで、第五次長期総合計画の将来都市像「あかがねのまち、笑顔輝く 産業・環境共生都市」の実現に向け、快適交流、経済活力など6つのまちづくりの目標を掲げ、41の施策に取り組んでまいりました。令和2年度はその最終年度となることから、この1年間、その完遂に向け、全力で取り組

んでまいります。

改めて言うまでもございませんが、市政の主役は市民の皆様でございます。10年後に、その市民一人ひとりが、輝きを放ち、幸せを感じ、心の豊かさを実感していただけるよう、本市まちづくりの最上位指針であります「第六次新居浜市長期総合計画」につきましても、基本構想、基本計画の策定作業を進めてまいります。

また、本市では、東京圏への一極集中の是正と人口減少問題に対応するため、平成27年に「第1期新居浜市総合戦略」を策定し、様々な地方創生施策に取り組んでまいりました。しかしながら、本市においても、改善傾向はみられるものの依然として東京圏への転出超過は続いており、更には出生数の減少にも歯止めがかからない状況にあります。

このようなことを踏まえ、引き続いて地方創生の取組を加速させるため、令和2年度を初年度とする5か年計画の「第2期新居浜市総合戦略」の策定を進めているところであります。

「第2期総合戦略」では、Society（ソサイエティ）5.0の技術やSDGsを原動力としたまちづくりなど、新たな視点も取り入れ、「雇用創出と人材育成による産業の振興」、「関係人口の創出と交流・定住人口の拡大」、「子育て支援の充実と健康長寿社会の実現」、「多様な連携と時代に合ったまちづくりの推進」の4つの基本目標を掲げて、「住みたい住み続けたい あかがねのまち」の実現を目指し、活力ある地域社会への取組を強力に推進してまいります。

#### **防災・減災対策の充実・強化**

次に、防災・減災対策の充実・強化についてでございます。

皆様ご案内のとおり、3月には、市役所西側に建設を進めております総合防災拠点施設がグランドオープンいたします。消防や危機管理の機能のほか、地震や水害体験のできる体験型防災センターが整備されますので、多くの市民の皆様にご利用いただき、地域の防災力の向上に努めてまいります。

また、令和2年度から新たに、緊急避難場所として活用可能な自治会館の耐震化を支援するほか、災害時対応型移動式トイレ車を整備するなど、更なる地域防災力の向上を図ってまいります。

さらに、一昨年西日本豪雨や昨年東日本を襲った台風による災害、また、近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震等へ対応するためにも、危機管理体制の見直しも含め、ハード・ソフト両面で、より一層の防災・減災対策の充実・強化に取り組んでまいります。

## I C T利活用の推進

次に、I C T利活用の推進についてでございます。

近年のI C Tの急速な進展により、私たちの身の回りの様々な分野にI C Tが浸透しております。また、I o Tの実装やビッグデータ、A Iなどを活用した技術革新である第4次産業革命は、産業構造や雇用環境の転換に加え、私たちの暮らしや生き方、働き方にも劇的な変化を及ぼすことが予想されております。

このようなことから、本市におきましても、先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出するスマートシティへの取組を推進してまいります。また、小・中学校においては、令和5年度までに児童・生徒1人1台の導入に向け、タブレット端末の整備を進めるほか、市民サービスへのR P A、A Iの導入についても検討を進めてまいります。

古代中国の思想家「孟子」の言葉に、「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず」という言葉がございます。

これは、いかに方角や自然現象が良くても、地勢の有利がなければうまくいかない。また、いかに地勢の有利があつたとしても、民心の和合一致がなければうまくいかない。つまり、物事を成就させるには、人の和が何よりも大切である。という意味であります。

私は、いつの時代においても、組織として事を成し遂げるために重要となるのは「共通理解」と「チームワーク」ではないかと考えております。個人の力が集まり「まち=チーム」を支えておりますが、その力が集まり、多くの力と多くの心が一つになった時にこそ、最高・最大の力が発揮されるものでございます。

令和2年度も、「H e l l o ! N E W 新居浜」を合言葉に、市民の皆様、議員の皆様、そして行政が一体となり「ワンチーム」「チーム新居浜」で「新しい新居浜」を創る取組を推進し、市民の誰もが幸せを実感できる「笑顔輝く新居浜市」の実現を目指し、各種施策に取り組んでまいります。

引き続き、主要施策の概要につきまして、第五次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのフィールドごとに、順次ご説明申し上げます。